

永懷 張老前人的慈語

◎ 日本道本道院
黃野 梨圭點傳師

感恩老前人

修道には必ず磨かれる事と、試される事がある事を知らなければいけない。そしてこれらは成道の元である。

逆境にあった時は人の至誠を試され、逆事にあった時は人の智慧を試されている。千磨萬考が来ようとも一切の阻礙を恐れず受入れ、退歩する事なく心意志堅く終始一貫していなければいけない。

私が麗水街にある老前人の住まいを訪問した際に老前人より頂いた有難い慈語です。熊本に戻ってからは素食材料卸の仕事に携わり、煎包の販売などもしていました。それがきっかけで沢山の前人及び点傳師、大徳者達に出会う事が出来ました。

例えば、神戸の道德会館の禹点分前人、大阪道德会館の康辛生前人、福岡道德会館の本道俊孝前人並びに入江点傳師など。

始まりは大阪の康辛生前人の一言でした。ある日、注文の際に「あなたは誰の後学ですか？」と聞かれ、私はすぐさま「基礎組、張培成老前人の後学です。」と答えました。康辛生前人は「貴方の老前人は本当に苦労してこの道を、慧命なる天命を海を越えて台湾に傳えました。衆生の爲に自分を犠牲にした大徳により全世界にこの道は流布しています。いいでしょう。あなたとは安心し

感恩老前人

修道必知磨考是成道之母。遇有逆境，是考人之至誠；遇有逆事，是考人的智慧。要拿定主意把握自性，不怕一切荆棘，雖有千磨萬考，也不妄生退縮心；堅定心志，始終如一。

後學感恩老前人，前往您麗水街住家拜訪時，受到您的慈語賜導及普照。回日本後，後學因爲做素食材料、粽子及煎包批發，而接觸了各組線前人及點傳師大徳，例如：神戶道德會館禹點分前人、大阪道德會館康辛生前人、福岡道德會館本（嚴）道俊孝前人及入江點傳師……。

大阪康辛生前人起初向後學訂貨時，曾問起：「你是誰的後學？」後學回答：「是基礎組張培成老前人的後學。」他說：「你的前人很辛苦，爲道渡海到台灣，爲薪傳慧命，爲衆生之光明而燃燒自己，他的廣大徳澤隨道流佈各地。我可以信賴你，跟你繼續訂貨與

て商売が出来そうです。」なぜ、康前人は私にこんな質問をしたのでしょうか？なぜなら、今、日本の道務が非常に乱れているからです。「私の所には金線があるが、貴方の所にはない。」などと言って道親達を不安にさせているのです。ここが最も気をつけなければいけない所です。

以前、他の組の道親、その道親は名古屋にいますが、フトとし事から金線の話になり私はその道親に「そんな謠言などに惑わされず、早く自分の前人・点傳師・引保師の所に帰りなさい。自分の前人・点傳師・引保師、これが金線なのです。」と言いました。その道親はこの言葉を聞くと「貴方の言葉を聞いて私はやっと目が覚めました。今までこの様に言ってくれた人はいません。本当に感謝してます。」と大変喜んで、今でもお米の収穫時期になると毎年道場に送ってきては結縁を結んでいます。

感恩に感恩を。「前人者が樹を植え、後人者が涼む。」と言う言葉があります。どういう意味か？

以前、福岡の本道俊孝前人が私に「私が何か困難に合った時は必ず老前人の無微の照顧を受け、時にはお金さえも送って来る事もあった。張老前人の道への理念は『道本一體、理無二到』この理念で道務を果たして来ました。貴方も老前人の理念に従い、しっかりと老前人に就いて開荒しなさい。」と言われ、海外にいる私はとても鼻が高い思いをしました。

老前人の大徳は六十年余り、この六十年は無私奉獻、更に私達を連れ、萬里路を渡り、千里山を一つ、また一つ越え、老前人の一步一脚の光輝が海

交往。」爲什麼康前人會問「你是誰的後學」呢？因爲現在日本的道務非常亂，彼此互相攻擊；我有金線，你們沒有金線之類的傳言，使道親不安，所以須多注意。

曾經有一位其他組線的道親，他們的道場在名古屋。因爲生意關係，和後學經常連絡，他問起金線問題，後學成全他說：「不要亂聽謠言，趕快回去接自己的前人、點傳師、引保師，這就是金線！」他聽了之後，很感謝我們的做法，之後每逢一年一次收割時期，一定寄新米來道場跟大家結縁。

感恩再感恩——「前人種樹，後人乘涼」的恩。特別是福岡本（嚴）道俊孝前人，經常向後學提起：「我以前一有困難時，常受到你們老前人無微不至的照顧，有時候也會寄錢過來。尤其老前人以『道本一體，理無二致』的理念推動道務，你要好好跟隨著老前人開荒。」身在國外的後學，聞之真是覺得驕傲及光榮。

老前人大徳，六十多年來無私奉獻，帶領我們跋涉萬里路、千重山；爲道踏遍千山萬水，生命一步一脚印，留下永恆的光輝，領導我們開荒播



文薈篇

Writing Gathering Field

外で開荒する私達に知恩・感恩・報恩の三つが必ず必要だと教えてくれました。これは老前人が一生かけて私達の未来への路を作ってくれた証拠です。

堅定心志 終始如一

老前人慈語：今、大道應運の時代の中で、聖人・賢人などの救世した人の偉大志向を見習い、成道を行かなければならない。天下の人が行わないのなら、私達が行えばいい。凡夫が耐え忍べない事も私達は耐え忍ばなければいけない。これで限りある時間を永久的生命へ換えるのです。その爲には眞に立功・立德・立言の三つは不朽である。この三つで普度衆生の先世、萬世の聖業を果たすのです。

真修煉、萬考不倒

本当に修煉出来ている人はどんな事で試されようと決して倒れる事はない。

今世私達が上天末期一著の普渡收圓の大事が出来事を嬉しく思わなければいけない。その爲には、拳を握り締め、細心の注意を払いながら開荒、道務宏揚し、上天からの試験にも勇氣を持って立ち向かい、更なる困難に立ち向かっていき、目標に達するまでは決して、退歩すること無く突き進むでしょう。でなければ老前人の期待に応える事は出来ないでしょう。

以身作則

第二回の日本道親を連れて張老前人にお会いしに行った時の事です。

先天道院に着くと、老前人直にオシボリを道親に渡し、椅子を並べたり、お茶をだしたりし

種、總是告訴我們要知恩、感恩、報恩。未來我們將永遠遵循著老前人一生爲道犧牲奉獻所開闢出的道路。

堅定心志，始終如一

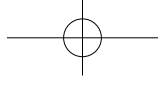
老前人的慈語：「在大道應運的時代裡，須效法聖賢，抱定濟世救人之偉大志向，方能傳萬古聖道。行天下之不肯行，忍凡夫所不能忍；以有限的時間換取生命的永恆，真正做到立功、立德、立言三不朽，完成普度眾生的千秋聖業。」

真修煉，萬考不倒

我們要認知：有幸能辦上天末後一著、普度收圓大事，須終日戰兢惕勵，小心謹慎開荒、宏揚道務，並經得起上天考驗，愈挫折愈奮勇、精進，永不退志。抱著不達目的，決不終止的決心，夙夜匪懈，以事道場，方不負張老前人的期望。

以身作則

後學第二次晉見老前人，是多年前帶日本道親回台時；當時大家都很高興能多聆聽老前人慈悲賜導。到了台北先天道院，老前人親自爲大



て頂きました。それを見た日本の道親は、一、偉大なる老前人が自分の身分をひけらかす事なく、その様な事までするのかと感動していました。老前人曰く「人は皆、以身作則、自分の身をもって見本を見せる。または道親照顧する。それはまるで本当に自分の家族に接するかの様に。そうする事で道親に安心感を与えるのです。皆さんも日本に帰ったら是非ともお互いに切磋琢磨し修道してください。」

道傳萬国九州心願

1946年以来、台湾ではまだこの道が理解されておらず、誤解されて続けていました。老前人はどのような苦勞があろうとも道の爲に決して留まること無く走り続けてきたのです。その結果、暗闇に一筋の光を放ったのです。その光を放つには老前人の挫折に挫折、失敗に失敗を乗り越えて来たらこそその光なのです。全ては老前人の慈悲なる心願からなるものです。その心願が叶えられる日が来たのです。中華民国で「一貫道總會」が正式に認められたのです。これは歴史に残る一ページです。

そして、1996年10月6日にアメリカ ロサンゼルスにおいて「一貫道世界總會」が成立、同じく経済大国日本でも「一貫道總會」が成立。現在世界各国でも続々と成立してきているのです。言うまでもなく、これらは全て張老前人の大徳によるものです。「道傳萬国九州心願、私の最大の心願が完成。これで衆生の人がまるで自分の家に帰るかの安心感を持って道を広めれること。張老前人は安心、放下、功圓果滿によって上天への報告を終えたのです。」

家泡茶、拿毛巾、拿椅子。日本道親很感動地說：「像老前人如此的偉大人物，卻沒有自恃身分、高高在上。」老前人回答說：「每個人都要以身作則、照顧道親，讓道親像一家人一樣，不生疏、有安全感。回去後大家要好好修道、互相勉勵。」

道傳萬国九州心願

自西元一九四六年以來，在台灣渡過了無數風聲鶴唳、草木皆兵的官考。老前人經歷種種辛苦，爲道奔波，總算柳暗花明又一村。老前人一路跌跌撞撞，挫折中再奮勉，失敗中再求突破，這一切都是老前人慈心悲願，終於達成心願——中華民國「一貫道總會」正式開展一貫道歷史性的一頁。

一九九六年十月六日更在西方強國——美國洛杉磯正式成立「一貫道世界總會」。而後在東方經濟強國——日本也成立「一貫道總會」，現在世界各國陸續成立總會，這都是張老前人大德。道傳萬国九州的最大心願總算完成，能讓天下衆生到處如自己的家，安心把道宏。老前人終於能安心放下，功圓果滿，回天繳旨了。